

8月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
なし類		8,058	やや増	7,578	324	103	339	3	0.0	千葉、茨城、福岡中心。7月末から関東産幸水の出荷が始まり、8月あたには各銘柄出そろ。全体的に生育良く、大玉傾向となっている。九州は平年並みのペースだが、関東産は生育が前進する可能性。入荷量、価格ともに、前年をやや上回る見込み。
もも		6,151	減	6,377	418	102	401	358	5.8	福島、山梨中心。生育が大幅に前倒し気味の出荷となっている。7月下旬には山梨産「川中島白桃」の出荷が始まっており、福島産も前進していることから、8月の出荷量は少なくなることが予想され、盆前には不足感も漂う。後半産地の長野も生育がすすんでおり、8月上旬には「なつっこ」が出荷される。総入荷量は前年を下回り、価格はやや上回る見込み。
りんご (つがる)		1,204	やや減	955	329	101	336	407	33.8	長野、山形中心の入荷。7月末より順次早生品種が出荷開始となり、27年度産リンゴの販売が始まる。生育は前進気味で推移しているが、気温が高めのところでは着色不良が懸念される。着果量は十分に確保されており、8月下旬には数量もまとまってくる。総入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。
ぶどう類		3,391	前年並み	3,488	795	98	727	918	27.1	山梨、山形、長野産中心の入荷となる。8月より山梨産の露地大粒系品種の入荷が始まり、出荷量も増えてくる。露地の作柄良く、大房で豊作基調であるが、高温による着色遅れも懸念される。一方、モモ等が大幅に前進していることから、盆前の商材としての引き合いは強い。拡大が続いている「シャインマスカット」は、知名度の向上で価格は堅調。総入荷量・価格ともに、ほぼ前年並みの見込み。
メロン類		2,263	減	2,842	423	103	357	445	19.7	北海道、青森、静岡産が中心となる。シーズン前半は小玉傾向でやや遅れてスタートした。盆までは産地発送のギフトが多く、市場入荷量が少ないが、盆明けは市場中心になり流れが変わってくる可能性も。増入荷量は前年を下回り、価格は上回る見込み。
すいか類		11,171	やや減	10,711	137	112	156	5,271	47.2	山形、長野中心。今年は残暑が厳しく、高値で取引される見込み。